

研究テーマ 指導の工夫	日本の伝統的な形や材料、技法を取り入れた学びを通して、表現の可能性を広げるための 一第2学年「木目込み手まり制作～和の文様を生かして～」の実践を通してー
	大子町立大子西学校 教諭

## I 研究テーマについて

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説美術編では、教科の目標（2）に「造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようとする。」とある。ここでは、美術科で育成することを目指す「思考力、判断力、表現力等」について示されている。前半部分では、発想や構想と鑑賞の双方に重なる資質・能力を示しており、中間部分は、豊かに発想し、創造的な表現の構想を練ったり再度練り直したりする資質・能力を示している。後半部分は、造形的なよさや美しさなどを感じ取ったり表現の意図と工夫などについて考えたりするなどの見方や感じ方に関する資質・能力を示している。これらの目標を一つの題材を通して達成するには、日本の伝統工芸の一つである木目込み手まりの制作に取り組ませることで発想や構想に関する資質・能力、鑑賞に関する資質・能力を育成するための題材として適切ではないかと考えた。

私たちの住む日本には、歌舞伎や能、狂言などの伝統芸能や漆器や蒔絵など漆を材料とした伝統工芸品など、世界に誇れる伝統文化が古くから受け継がれている。グローバル化が進む中、これから国際社会で活躍する日本人は増えると予想される。国際社会に出たときに、自国の伝統文化について紹介したり、質問をされたりする機会もあると考えられる。これらのことを考えたとき、自国の伝統文化のよさを知り継承・発展させるための美術教育が必要となってくる。しかし、生徒たちがそれらの伝統文化に触れる機会はそう多くはなく、知識や理解も乏しく関心も薄いという現状がある。

本研究では、伝統工芸として古くから伝わる木目込み技法を活用することや、呉服や風呂敷などに用いられるちりめん布などの材料を用いることで美術科の題材を通して日本の伝統文化に触れ、学ぶ機会とした。また、木目込み手まりのデザインの中に和の文様を取り入れることで、古くから受け継がれてきた文様の意味や成り立ちを学び先人の美意識や創造的な精神を感じ取り、形や色彩などの組み合わせによる構成の美しさを捉え、表現の可能性を広げることができると考え、本研究テーマを設定した。

## II 研究の実際

## 1 題材名 木目込み手まりの制作 ~和の文様を生かして~

## 2 題材の目標

- 和の文様に関心をもち、文様の成り立ちや意味、よさや美しさを感じとり作品の中に生かそうとしている。  
(美術への関心・意欲・態度)
- 和の文様の特徴を生かしたり、形や色彩の組み合わせを工夫したりしてデザインの構想を練ることができる。  
(発想や構想の能力)
- 木目込みの技法を理解し、仕上がりの美しさを考え創造的に表現することができる。  
(創造的な技能)
- 作品から表現の工夫やよさや美しさを感じ取り、味わうことができる。  
(鑑賞の能力)

## 3 題材について

## (1) 児童（生徒）の実態

昨年4月に本校に着任した際に本クラスの生徒（19名）に実施した美術科の授業に関する意識調査の結果は、以下のとおりである。

- |                |                         |
|----------------|-------------------------|
| ・絵を描くのは好きですか？  | 好き 11名 嫌い 4名 どちらでもない 4名 |
| ・物を作ることは好きですか？ | 好き 14名 嫌い 1名 どちらでもない 4名 |

調査結果によると、多くの生徒が描く、作るという作業に対し肯定的な捉え方をしていることがわかる。実際の授業の様子からも毎時間の学習課題を達成しようと意欲的に取り組む様子が見られた。また、授業終了後に記入している自己評価カードの「今日の授業で学んだこと・次の授業でがんばりたいこと」の記入欄には、本時の学習成果の反省や達成状況のみならず、次時の学習に対する目標や学習のつまずきに対する質問事項などを記入しており、学習に対する意識の高さが伺える。しかし、学習に対する意識が高いあまりに制作活動でつまずいたり、自分の思い描いたような表現方法が実践できなかったりすると学習意欲が低下し、落ち込んでしまう生徒も数名いる現状である。

(2) 題材観

本題材「木目込み手まり制作～和の文様を生かして～」は、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説美術編第2学年及び第3学年の2内容A表現（2）ア（ア）の「材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すこと」に関連した題材である。古くから伝わる和の文様の意味やデザインから多様な表現方法を参考にし、自分の作品のデザインに取り入れることで、表現意図に合う表現方法を追求することができる題材である。また、木目込みの切る、布を埋め込む、接着するといった技法を理解し創造的に表すことで、自分の表現を具現化するために創意工夫し、創造的に表すことができると考える。

(3) 指導観

導入では、美術資料の「伝統の文様」から、和の文様の意味や成り立ちを学習し、先人の作り出した美意識について鑑賞する機会としたい。また、発想や構想を練る段階では、自分の作品のデザインにどのように構成して取り入れていくのか創意工夫し考える中で、様々な表現方法があることに気づき新しい表現方法を創造していく態度を身に付けさせたい。

#### 4 指導計画

(1) 題材の評価規準

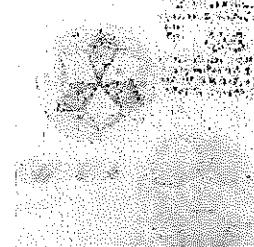
関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
・和の文様に关心をもち、文様の成り立ちや意味、よさや美しさを感じ取り作品の中に生かそうとしている。 ・表現方法を追求し、意欲的に制作に取り組むことができる。	・和の文様の特徴を生かしたり、形や色彩の組み合わせを工夫したりしてデザインの構想を練ることができる。	・木目込みの技法を理解し、仕上がりの美しさを考え創造的に表現することができる。	・和の文様の成り立ちや意味を理解し、よさや美しさを感じ取ることができます。 ・作品から表現の工夫やよさや美しさを感じ取り、味わうことができる。

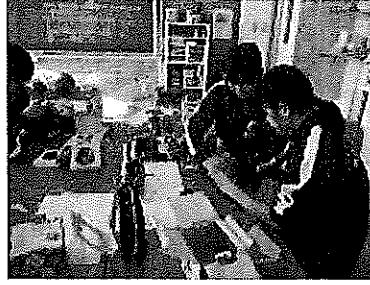
(2) 指導と評価の計画（7時間扱い）

時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
第1次 ①	和の文様の成り立ちや意味について学習する。	・和の文様に关心をもち、文様の成り立ちや意味、よさや美しさを感じ取ることができる。  【観 鑑】【観察、ワークシート】
第2次 ①	デザインを考える。	・和の文様に关心をもち、文様の成り立ちや意味、よさや美しさを感じとり作品の中に生かそうとしている。 ・和の文様の特徴を生かしたり、形や色彩の組み合わせを工夫したりしてデザインの構想を練ることができる。  【観 発】【観察、ワークシート】
第3次 ④	木目込み手まりの制作 ・下絵描き。 ・型紙作り。 ・木目込みの制作。	・木目込みの技法を理解し、仕上がりの美しさを考え創造的に表現することができる。  【創】【観察、作品】
第4次 ①	作品鑑賞する	・作品から表現の工夫やよさや美しさを感じ取り、味わうことができる。  【鑑】【観察、ワークシート】

## 5 指導の実際

### (1) 授業の流れ

時間	活動の内容及び留意点	生徒の様子
1	1 資料集から、見たことのある和の文様があるかどうか確認した上で、文様の成り立ちや意味について学習する。	・市松や鱗模様など目にしたことはあるが、文様の名称や文様のもつ意味については知らなかった。
1	2 和の文様を二つ以上取り入れたデザインを考える。	・和の文様を自分のデザインに積極的に取り入れてアイディアスケッチをする生徒とどのように文様を組み合わせてデザインを構成していくのか悩む生徒が見られた。 
	3 ちりめん布の色彩や柄を見て配色を考える。	【亀甲模様を取り入れている生徒】 ・木目込み手まりセットの中に入っているちりめん布の色や柄が人それぞれ異なるため、自分の希望する色や柄が入っていない生徒は、配色に苦戦する姿が見られた。 
4	4 仕上がりの美しさを考え、道具の使い方等工夫して制作を進める。 5 制作で困った時は、周りの友達に相談してみるよう提案した。	・初めのうちは木目込みの技法に戸惑う様子が見られた。 ・技法に慣れてくると集中して制作に取り組む生徒が増えた。 ・制作に行き詰まると、友達にアドバイスを求める生徒の姿も見られた。 

		 <p>【友達にアドバイスをし、互いに学び合う様子。】</p>
1	6 鑑賞会では友達の作品からよさや美しさを感じ取り、ワークシートにコメントを書いていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和の文様が作品の中にどのように取り入れられているのかをよく観察し、ワークシートにコメントを記入することができていた。</li> <li>・配色等にも着目し、よさや美しさを感じ取ることができていた。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; background-color: #f0f0f0;"> <p>コスモスの中空部にて茎を八角形に 花瓶の内側に、青海波も八角形にして 枝を挿して、和風ながら花瓶だけでも いる感じがいたしました。 また、柄がいい感じでありうまくいきました 感じで、いい表現いました。</p> </div> <p>【ワークシートより。生徒のコメント。友達の作品の中に和の文様がどのように取り入れられているのか細かくコメントしている。】</p>

## (2) 授業の展開

**目標** 作品から表現の工夫やよさや美しさを感じ取り、味わうことができる。  
(鑑賞の能力)

**準備・資料** ワークシート、作品  
展開

学習活動・内容	指導上の留意点 (・) 評価 □
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>友達の作品から表現の工夫やよさや美しさを感じ取りワークシートにコメントを記入しよう。</p> <p>（鑑賞の進め方）</p> </div> <p>① 友達の作品を見て、表現の工夫やよさや美しさを感じ取る。      ② 感じ取ったことを友達のワークシートに記入する。      ③ 全員のクラスメイトの作品について①～②の活動を繰り返す。</p> <p>2 鑑賞活動をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞の進め方について説明し、活動に見通しを持たせる。</li> <li>・事前に鑑賞の視点について伝える。(和の文様や柄が作品の中にどのように取り入れられているか。よさや美しさを見つけるなど。)</li> <li>・時間内に全員のクラスメイトの作品にコメントを記入できるよう声かけを行う。</li> <li>・鑑賞の視点が定まらない生徒や感じたことを文章でうまく表現できない生徒に対しては気持ちを引き出すなどの支援を行う。</li> </ul> <p><b>関</b> 友達の作品を見て良さや美しさなどを感じ取章化することができる。(観察)</p> <p><b>鑑</b> 友達の作品から表現の工夫やよさや美しさを取ることができたか。(観察・ワークシート)</p>

3 本時の学習活動を振り返りまとめをする。 ワークシートに作品の制作を通しての自己評価と感想、反省を記入する。	・本題材から学んだ日本の伝統技法や和の文様、表現方法を今後の創造活動に生かすように意欲付けをする。
--	---

### III 研究の成果と課題

#### 1 成果

##### (1) 授業の様子から見る成果

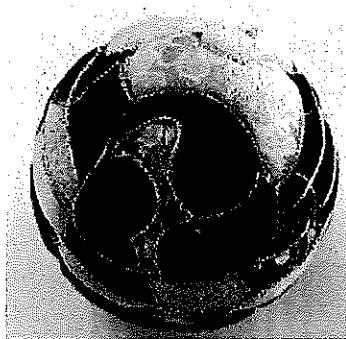
本題材に取り組む生徒の様子を観察していると、毎時間意欲的に取り組む姿が見られた。特に、構想を練る段階では、和の文様から作品の主題を生み出し、文様をデザインの中にどのように取り入れていくのか創意工夫している生徒が多くいた。また、作品の制作途中に作品について友達と意見交換したり、アドバイスを求め合ったりする様子が見られた。以上のことから、本題材の制作を通して、向上心や制作意欲が向上したことが考えられる。



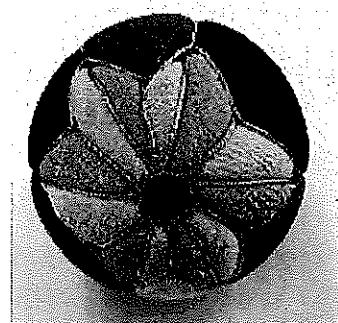
【休み時間にお互いの作品を鑑賞し、意見交換する生徒たち。】

##### (1) 作品から見る成果

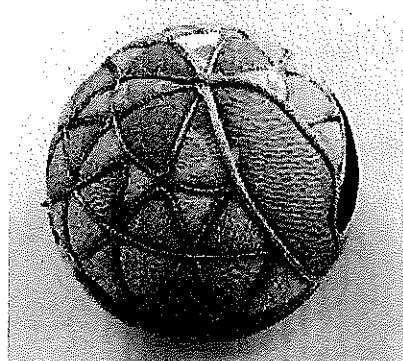
完成した作品から、自分の作品の中に和の文様をうまく取り入れ、デザインを構成したことや木目込みの技法を理解し、仕上がりの美しさを考え制作したことが伺える。また、和の文様から発想を得て、自分自身で新たな文様を生み出す生徒も出てきた。これらのことから、生徒たちは、自国の伝統文化を知り、自己の作品に取り入れる題材を設定し授業で実践することで、生徒の発想や構想の能力、創造的な表現の可能性を広げることができたと考える。



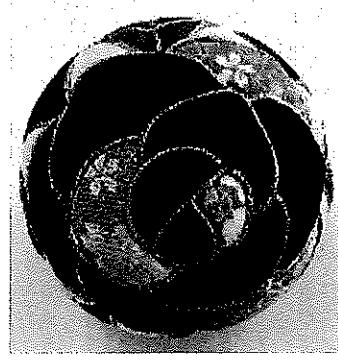
【三つ巴を取り入れた手まり】



【麻の葉を取り入れた手まり】



【鱗と自分で生み出した文様を構成した手まり】



【自分で文様を考えた手まり】

## (2) キャプションから見る成果

生徒には、作品完成後に展示用キャプション作りを通して自分の作品についてまとめさせた。キャプションには、作品の題名、使用した和の文様、作品の説明を記入させた。下記のキャプションを見ると、違い鷹の羽の文様からバレエ作品白鳥の湖の中に登場するオディールの羽をイメージして使ったと記載されている。このことから、生徒は和の文様を通して発想や構想を膨らませ作品を制作したことがわかる。

### (3) 事後のアンケートから見る成果

本題材終了後、生徒たちに以下のアンケートを実施した。

- 木目込み手まりを制作する前に、日本の伝統文化や和の文様に興味をもったことはありますか？

ある	9名	ない	9名
----	----	----	----

○ 今回の木目込み手まりの制作を通して、日本の伝統文化や和の文様に興味をもちましたか？

興味をもった	13名	興味をもたなかつた	5名
--------	-----	-----------	----

(平成31年3月実施)

アンケートの結果を見ると、本題材の制作を通して、自国の伝統文化に対する興味・関心が高まつたことがわかる。初めは、和の文様に対して興味をもったことがなかったが、自分の作品の中に取り入れるという発想や構想の段階を通して、和の文様のもつ美しさや木目込みの技法に見られる伝統技法の繊細さに着目し、意識が変化したと考えられる。題材終了後の生徒たちからは、「地味だと思っていた和柄をおしゃれだと思うようになった。」、「和の文様がどのような物に使われているのか日常生活の中で意識して探すようになった。」、「和の文様があることを知らなかつたが、今回の学習を通して日本には様々な文様があるということを知ることができた。」などという感想を聞くことができた。これらのことから、自国の伝統文化のよさを知ることもできたと考えられる。

2 課題

- ・導入時に、様々な日本の伝統工芸品を鑑賞する時間を設け、自国の伝統文化に対する興味・関心をもたせたい。
  - ・主体的に主題を生み出し、表現方法を工夫し創造活動に取り組むことが難しい学年もある。どのような手立てを講じ、題材に取り組ませていくか検討したい。
  - ・創造活動を通して、生徒たちが相互に学び合い、互いを高め合い、発想や構想の能力、創造的な技能を向上させることができるような授業を実践していきたい。

### ※參考資料

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説美術編」平成29年7月